

技術士第二次試験受験体験記

地域戦略研究所 服部 義昭

1. はじめに

私は、平成 18 年度技術士第一次試験の合格後、平成 19 年度から 4 ヶ年度、技術士第二次試験を受験し、平成 22 年度技術士第二次試験において、建設部門（都市及び地方計画）に合格した。

本報告は、平成 22 年度技術士第二次試験で合格に至るまでに、私が行った受験対策を紹介するものである。

本報告が、今後、技術士を目指す方の受験に対する 1 つの参考となれば幸いである。

2. 業務経歴票の作成

受験申込で提出する業務経歴票のうち、職務内容は口頭試験で重要なため、推敲が重要であった。

私の場合、3 月から経験業務の整理を開始して業務経歴票の作成を進め、4 月に社内の技術士の方の添削を繰り返し、5 月の連休明けの受験申込期日に間に合わせるようにした。

その際に留意した、職務内容の記載のポイントは、次の通りであった。

- ①職務内容の記載欄（10 行）全てを埋め、幅広い経験のアピールに努めた。
- ②時期によって職務内容が一変するのではなく、時系列に沿って、業務経歴が発展的に連続する職務内容とすることに努めた。
- ③各職務内容については、一言で職務の特徴が分かる文言を記載するようにした。

3. 筆記試験の対策

ここでは、主に、私が行った必須科目の筆記試験の対策を紹介する。

3-1. 社会情勢等にもとづく想定問題の予想と模擬回答の骨子の作成

私は、常時、社会資本整備の潮流など、社会情勢等に対する考え方を、自ら整理することを継続することが、結果として筆記試験の対策につながると判断した。

そこで、まず、国土交通省のメールマガジン（平日の毎日配信）などを閲覧し、社会情勢等の把握として、社会資本整備審議会の動向（委員会報告のとりまとめ、など）や国土交通関連法の改正などの情報を得ることにより、そのポイントを想定問題のテーマとした。

そして、その都度、それに該当する資料（報告書等）を収集して内容を把握したうえ、その内容を、現状・背景、課題、問題点、対応策に簡潔に整理することにより、想定問題に対する模擬回答の骨子とした。

一例として、私が想定した必須科目の問題のテーマと、依拠した国の動向等は、次の通りである。

①観光立国

- ・観光立国推進基本法の制定
- ・観光立国推進基本計画（国土交通省）
- ・観光白書（国土交通省）
- ・観光庁アクションプラン（観光庁）

②環境

- ・21 世紀環境立国戦略（環境省）

③地球温暖化

- ・京都議定書の第 1 約束期間への移行

④安全・安心

- ・安全で安心して暮らせるまちづくりの推進方策（社会資本整備審議会）

⑤住民協働

- ・「新しい公共」の考え方による地域づくり（国土交通省）

⑥経済活性化

- ・国土形成計画の策定（国土交通省）
- ・国土交通省の重点政策（国土交通省）

⑦暮らしを守り活力を維持する社会資本整備

- ・国土交通白書

⑧ストックマネジメント

- ・住宅・社会資本の管理運営技術の開発（国土技術政策総合研究所）
- ・道路構造物のストックマネジメントのための技術動向（政策研）

⑨社会的合意形成

- ・⑤と同様、その他

3-2. 模擬回答の骨子にもとづく模擬論文作成

回答の制限枚数（字数）との整合を確認するために、模擬回答の骨子にもとづき、模擬論文を作成し、想定問題に対する現状・背景、課題、問題点、対応策の記述量の把握に努めた。

一例として、私が模擬論文で配分した内容の概ねの記述量は、次の通りである。

（全3ページ（600字／ページ）中）

①現状・背景	0.25 ページ程度
②課題	0.25 ページ程度
③問題点	1.00 ページ程度
④対応策	1.50 ページ程度

3-3. 筆記試験対策の時間

私の場合、平成21年度技術士第二次試験の筆記試験の不合格が判明した平成21年11月から、平日の早朝の1時間を受験対策の時間とした。

その結果、平成22年8月の試験日までの約9ヶ月間、1ヶ月に平日約20日間、あわせて約180時間の対策時間を確保できた。

3-4. “ながら”時間の活用

作成した全ての模擬論文を、ICレコーダに録音し、移動時にICレコーダを聴くことにより、受験対策の補助とした。

3-5. 筆記試験当日に向けた主な準備

筆記試験受験のために、特に、私は次の準備を行った。

①旅程確保

- ・私が受験した広島会場は、近年、同じ会場であるため、試験日の前日に広島入りするために、受験申込（5月）と同時に、宿泊先を確保した。試験日が行楽シーズンの8月の週末であり、早期の確保に間違いはないと判断した。
- ・試験日の1ヶ月前に、直ちに、松江～広島間の往復の高速バスの席を確保した。公共交通機関の利用は、自家用車での移動と比較すると安全で、所要時間も正確で、乗車の疲労も少なく、駐車の手配も必要ないと判断するとともに、車中も受験対策の時間として有効と判断した。

②携行品

- ・夏場の試験会場は、部屋によっては室温が極端に低い場合も考えられることから、長袖の上着を準備した。

3-6. 筆記試験

私の平成22年度技術士第二次試験の筆記試験受験の様子を紹介する。

①必須科目（午前 試験時間＝2時間30分）

防災・減災に関する問題を選択した。

安全・安心をテーマとした模擬回答の骨子を題意に合わせて体系化し直し、回答した。

②選択科目（午後 試験時間＝3時間30分）

問題群1については、低炭素社会の実現に関する問題を選択し、地球温暖化をテーマとした模擬回答の骨子を題意に合わせて体系化し直し、回答した。

問題群2については、ワークショップ手法による公園づくりに関する問題を選択した。これについては、想定問題として対策していなかったが、その場で、業務経験で得た知見を題意に即した論文として体系化することに

より、設問に対応した。

③時間配分

私の場合、回答用紙 1 枚（600 字）を記述するのに 30 分を必要とする。

必須科目（回答用紙 3 枚）は、1 時間で論文の骨子を問題用紙の余白に作成し、1 時間 30 分で論文を記述した。

選択科目については、3 時間 30 分の試験時間内に 2 題（回答用紙各 3 枚）の回答が必要であった。従って、1 題あたり、15 分で論文の骨子を問題用紙の余白に作成し、1 時間 30 分で論文を記述した。必須科目と比較して、選択科目は試験時間に余裕が少ないため、回答の全体像の骨子を概略描き、論文を記述しながら詳細の論述内容を考える必要があった。

3-7. 筆記試験後

筆記試験の翌日に、口頭試験対策のため、問題用紙の余白に作成した回答論文の骨子をもとに、回答論文の復元を行った。

4. 口頭試験の対策

4-1. 技術的体験論文の作成

口頭試験のために、筆記試験の合格発表後の約 1 週間の短期間（口頭試験の事前）に、技術的体験論文（2 枚 計 3,000 字）を作成して提出する必要がある。これに対応するために、あらかじめ、合格発表前の 10 月から約 1 ヶ月間で、身近の同じ部門・科目の技術士の方の添削を繰り返しながら、技術的体験論文の作成を進めた。

4-2. 筆記試験の合格発表

筆記試験の合格発表日は、業務で夜勤であった。例年、合格発表日の午前中に文部科学省と日本技術士会のホームページに合否発表されると聞いていたが、夜勤時の休憩中、0 時を少し超えて合格発表日となった直後に、日本技術士会のホームページにアクセスすると、合否発表されていた。

4-3. 技術的体験論文の提出

筆記試験の合格発表後、直ちに、あらかじめ作成を進めていた技術的体験論文について、身近の同じ部門・科目の技術士の方の他に、科目は異なるが、弊社技師長に意見をお願いした。

また、筆記試験の合格発表直後に開催された、島根県測量設計業協会の受験対策講習会を受講し、技術的体験論文について、同じ部門・科目の技術士の方の添削を受けることができた。

さらに、弊社技術部長の紹介で、もう一方の同じ部門・科目の技術士の方の添削も受けることができた。

特に、弊社技術部長の紹介の技術士の方に、約 1 ヶ月間かけて作成した技術的体験論文を、ほぼ全否定されたが、複数の技術士の方の添削を通じて、技術的体験論文では、現状・背景及び課題抽出と問題点解決の内容を体系的に明確化し、分かりやすい表現（図表及び文言）で記載されていなければ技術的体験論文でないことを痛感した。

4-4. 想定問答集の作成

「技術士試験を応援する 第二次試験合格法 口頭試験編 2010 年度版」（編著 鳥居直也／発行 トリフォリオ）を購入・参考し、想定問答集（問答数 約 450 問答）を自作した。想定問答集の作成に当たっては、身近の同じ部門・科目の技術士の方、及び、弊社技師長に、想定される質問をいただいた。

4-5. 業務経歴と技術的体験論文のプレゼンテーションの練習

口頭試験では、受験者は、提出した業務経歴票や技術的体験論文などの資料等を携行できない。

一方で、口頭試験では、受験者の業務経歴や技術的体験論文について時間を区切って、説明を求める場合がある。

そこで、私は、3 分、5 分、10 分の時間のパターンで、業務経歴と技術的体験論文を口

頭でプレゼンテーションする練習を繰り返した。

特に、“ながら時間”の活用の意味で、入浴中の練習は有効であったと考える。

4-6. 模擬面接の実施

想定問答集をもとに、模擬面接を行った。試験官役は、家内にお願ひし、模擬面接は4回行った。

家内相手の模擬面接でも、大変、緊張した。特に、当初は、業務経歴と技術的体験論文の口頭でのプレゼンテーションは、ひどい状況であった。

従って、想定問答集の作成と模擬面接により、ある程度“場馴れ”したことは、口頭試験当日にも役に立っているはずと考える。

4-7. 口頭試験の状況の情報収集

社内で筆記試験に合格し、私の先に口頭試験を受験した方に、自らの口頭試験受験に対する緊張状態を緩和する意味も含めて、試験状況について、情報提供いただいた。実体験にもとづく情報を提供いただけたことは、他の口頭試験受験対策以上に、受験に対する姿勢・心構えなどに役立ったと考える。

4-8. “ながら”時間の活用

筆記試験対策と同様に、作成した全ての想定問答を、ICレコーダに録音し、移動時にICレコーダを聴くことにより、受験対策の補助とした。

4-9. 口頭試験当日に向けた主な準備

口頭試験受験のために、特に、私は次の準備を行った。

①旅程確保

口頭試験は東京・渋谷で実施されるため、旅程確保が必要であった。

旅程は、口頭試験日の前日の東京入り、当日の帰省とし、早速、飛行機往復と宿泊のパ

ックツアーを手配した。

②体調管理

冬場の試験であることから、特に風邪の罹患に注意した。

そこで、罹患の予防のために、常時、マスクを着用し、外出からの帰宅時の手洗い・うがいを徹底した。また、のどや体調に若干でも違和感を得た場合には、漢方薬やのど薬などを直ちに服用した。

4-10. 口頭試験

私の平成22年度技術士第二次試験の口頭試験受験の様子を紹介する。

①試験室の配置

口頭試験は、フォーラムエイト（東京・渋谷）8階コンファレンスルームBで行われた。

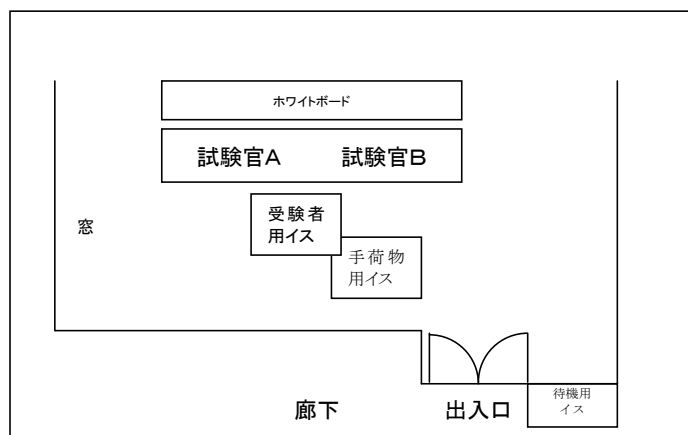


図 試験室の配置

②試験官

試験官A

- ・50歳代半ばの役人風。(メイン)
- ・進行役。(経歴と技術的体験論文の質問を担当)
- ・無表情。無動作。
- ・質問は淡々、粛々といった感じ。

試験官B

- ・40歳代後半のコンサル風。(サブ)
- ・専門知識と技術に関する見識、技術者倫理、技術士制度の質問を担当。

・優しそうな表情。時折、うなずくしぐさ。

* 両試験官の手元に 2 列数行表の 1 枚紙。
(質問リストかチェックリストと思われた。)

* 両試験官の間に 2 列数行で顔写真を掲載した 1 枚紙。(受験者確認用と思われた。)

③試験までの経過等

12/17 (金)

11:25 に松江駅出発。12:45 米子空港出発。
14:00 羽田空港到着。京急から品川乗換で山手線に乗り継ぎ、15:00 に渋谷駅到着。

渋谷東急インにチェックイン後、フォーラム 8 を下見。コンビニで夕食、翌日の朝食を買い込み、ホテルにこもる。

17:00 より、経歴及び技術的体験論文の説明の練習(声出し)と想定問答集(自作)の確認を繰り返す。

20:00 より、シャワー、夕食。しばらく、くつろいだ後、22:00 に就寝。(熟睡)

12/18 (土)

5:00 に起床。経歴及び技術的体験論文の説明の練習(声出し)と想定問答集(自作)の確認を行う。

6:00 より朝食、身支度。7:00 より、経歴及び技術的体験論文の説明の練習(声出し)と想定問答集(自作)の確認を繰り返す。

10:00 にチェックアウトし、ドトールで早めの昼食と、専門知識及び技術に関する見識の想定問答集(自作)を確認する。

11:00 にフォーラム 8 に移動し、受験受付、試験室の確認後、控室(6 階 オリオンホール)で経歴及び技術的体験論文の想定問答集(自作)の確認を行う。12:40 に試験室入口に移動し、13:00 に試験官 B がドアを開け、試験開始。

④主な質問内容

私が口頭試験で受けた主な質問は、次の通りである。

(経歴に対する質問)

・受験申込書に書かれた業務経歴と、提出し

ていただいた技術的体験論文について、10 分で説明して下さい。

- ・経歴のなかで、うまくいった業務があったら教えて下さい。
- ・技術士試験の受験の動機と、合格した場合の、その後の抱負を教えて下さい。
- ・あなたが所属されている「地域戦略研究所」とは、何を行うところですか。
- ・その部署は、何名、所属されていますか。
- ・その部署の組織体制と、あなたの立場を教えてください。
- ・現在所属されている会社名には「基礎」という名前がついていますが、いろいろなことをされているのですね。

(技術的体験論文に対する質問)

* 割愛

(質問数=約 30 問)

(専門知識と技術に関する見識の質問)

- ・観光振興について、行政主導の観光振興は上手くいっていない例が多いと思うのですが、行政主導で上手くいっている観光振興の事例があれば教えてください。
- ・低炭素社会のあり方について、あなたの考えを教えてください。
- ・都市の視点で、都市や中山間地域の人口減少について、その背景や課題、あなたの考え方について教えてください。
- ・集約型都市構造を実現するための手法を教えてください。
- ・エリアマネジメントという言葉を知ったことがあると思うのですが、その意味と事例を教えてください。
- ・離島振興には疑問を持つところもあるのですが、交通の利便性の悪い離島で、今後の離島振興の考えを教えてください。

(技術者倫理、技術士制度に対する質問)

- ・技術士の 3 義務、2 責務をお答えください。
- ・最近の事例で、技術士としてふさわしくない事例を教えてください。
- ・技術者倫理は技術士が守れば良いのですか。
- ・資質向上はどのように行っていくつもりですか。

- ・ 経営的視点から、会社の利益ということではなく、会社の取り組みとしては、どうあるべきと考えますか。

* 試験時間=45分

⑤感想

- ・ 試験官は2名だったが、前半の経歴と技術的体験論文、後半の専門技術及び技術士制度とで完全に役割分担されており、試験官Aと試験官Bが交互に質問するということではなかった。
- ・ 前半の経歴と技術的体験論文の質問については、「ひとつひとつ順を追って、丁寧に質問しますよ。」という感じだった。
- ・ 経歴については、会社、特に「地域戦略研究所」と会社の組織体制についての質問が多かった。予想していた在京時代の経歴や在京時代と現在の状況の違い、転職理由、経歴に挙げた業務内容の確認などは質問されなかった。
- ・ 技術的体験論文については、「業務1、業務2、ともに、まんべんなく、確認したいことを質問しますよ。」という感じだった。両業務ともに、業務実施体制と、業務成果の効果についての質問が多かった。予想していた参加型まちづくりの手法の見識などは、質問されなかった。
- ・ 専門知識については、「低炭素社会」や「集約型都市構造」、「人口減少」といった都市政策の方向性に関する質問が多かった。「都市計画制度」や「土地利用」、「市街地開発事業」といった質問は、直接的にはなかった。
- ・ 準備不足もあり、題意にそぐわない回答が数題あったと思っている。また、長い回答もあった。長い回答のときは、両試験官ともに体を起した。「少し回答が長いですよ。」という感じだったので、すぐに回答をまとめた。(反省)
- ・ 当日は晴天の週末で、ハチ公前では某政党が演説していたり、芸能活動の宣伝カーが何台も巡回していたが、試験室には、外の音は入ってこなかった。
- ・ 試験室は、広い部屋をホワイトボードで間

仕切って使用していた。試験官の声は小さく、質問を聴き取るため、背筋を伸ばしつつも、やや前傾姿勢になっていた。(誠意をもって受け答えているつもりだったので、特に姿勢を起こすことはしなかった。)

- ・ 前日にフォーラム8を下見したが、試験終了者が建物前で、「質問が抽象的で良く分からなかった。」などと携帯で話していたのが聞こえ、こちらの緊張感をあおられるかたちとなってしまった。フォーラム8は、さほど、迷う場所ではなかったため、下見は必要なかったかもしれない。(途中に、フォーラム8の位置を示す案内表示もあった。)むしろ、フォーラム8の中が迷路のような構造なので、早めに受験受付し、試験室を確認したのは正解だった。
- ・ 控室のオリオンホールはとても広い部屋だった。机・イスが教室型に配置された部屋は、右手後方1箇所のみで、受験生は後方の席に集まっていた。私は、あえて誰もいない最前列に行き、視界に人影をなくして受験に集中するようにした。

5. おわりに

今回、運良く技術士試験に合格することができたが、特に優秀でもない私が試験に合格できたのは、普段の仕事の中において、先輩技術士の方をはじめ、いろいろな方からご指導をいただくことができたからだと思っている。

技術者としては、まだまだ未熟者だが、今後も、地域に足を運び、相手の立場になって、謙虚な姿勢で仕事に取り組みたいと思う。